

平成 28 年 11 月 19 日(土) 午後 3 時～6 時頃 (開場午後 2 時 45 分、終了後、懇親会)

勉強会「歴史的まちなみの伝統的木造建造物をさまざまな災害から護りぬく」

歴史的まちなみの伝統的木造建造物(主対象:木造住宅)を、地域固有の木造伝統文化・伝統意匠を活かした手法でさまざまな災害から護り、被害を軽減するための課題と対策の要点を、これまでの KARTH の研究成果やシリーズセミナーの成果などを通して体系的に学び、考える。

司会 田村 佳英 (KARTH 防火・耐震研究チーム)

1. 「既存京町家のコンプライアンスと防火改修」

長谷見 雄二 先生 (早稲田大学教授)

今年 9 月に行った「裏返し塗りのない既存町家仕様土壁」の補強による防火改修実験の速報と今後の課題、部材性能ほか、既存町家の活用で必要となるコンプライアンスについて、技術的な解決の可能性を検討する。*注 コンプライアンス:法令遵守

< 意見交換 >



京都西陣の歴史的まちなみ

2. 「伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築 木造文化財建造物の耐震対策」

渡辺 一正 先生 (NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長)

熊本地震は震度 7 の強い揺れが繰り返された地震であったが、その中で歴史的建築技術は極めて強靱な粘り強さを示した。熊本城の石垣の崩壊は、近年改修したものに集中的に生れ、築 400 年の古い石垣はほぼ無傷であり、建設当初のままであった宇土櫓に至っては、石垣も上屋もほぼ無傷であったし、地盤が崩れ、全壊が集中した地域でも軽微な損傷で済んだ古い建物が認められた。震度 6 弱の鳥取地震では、岩山の亀裂や工事中の法面補強の崩落などの厳しい災害も生まれたが、歴史的な建造物では土壁の剥落、瓦の滑り落ち、天井の落下、設備システムの故障などの軽微な損傷が主体で、老朽建物でも倒壊は少なかった。

ここでは、このような歴史的ないし伝統的木造建築技術の粘り強さに籠められた仕掛けを解明し、伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築の具体的なヒントを得る。

3. 意見交換

会場: 西陣 藁ノ家 (京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632、江戸期築、防火・耐震改修町家)

参加費: 勉強会 1000 円(会員 800 円、学生無料)、懇親会 800 円(学生無料)

参加方法: お名前、所属、電話・FAX 番号、メールアドレスと懇親会参加の有無を明記の上、11 月 18 日(金)までに FAX 又はメール、電話でお申込み下さい。申込時点で参加受理とさせて頂き、ご返事は省略させて頂きます。

参加申込み・問合せ: NPO 法人 関西木造住文化研究会 (略称 KARTH:カース)

TEL 075-411-2730 悠計画研究所、FAX 075-411-2725、E-mail info@karth.sakura.ne.jp

<http://karth.org/> 京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地



会場

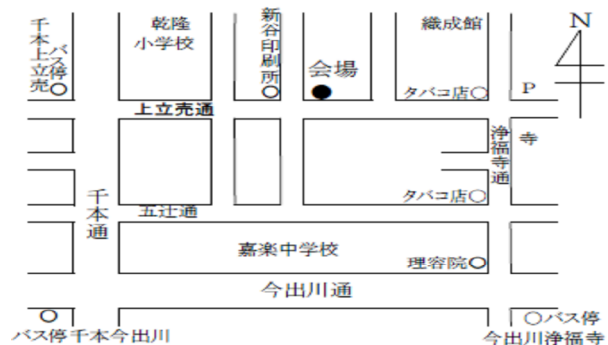
会場交通アクセス

最寄のバス停「今出川浄福寺」、「千本今出川」、「千本上立売」より徒歩約 5 分

JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口、烏丸今出川交差点の今出川通東側バス停から西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車

市バス利用: JR 京都駅烏丸口バス乗り場 A3 の 206 番に乗車、バス停「千本上立売」下車、または B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車



KARTH とは

当会は、各地の様々な分野の研究者、木造伝統構法の技能者・職方、建築実務者、市民の方々等の参画による総合的知見を活かした協働研究方式で、「地域固有の木造伝統文化を活かした安心して暮らし続けられる住まい・まちづくりの実現」のための総合的・工学的な研究開発・提案・実践活動に取り組んでいます。各自、自立しながらも、所属を超えて対等な立場で自由に参画でき、必要に応じて連携することにより、社会に向けて、より大きな力を発揮できる場づくりを目指しています。